

令和6年度 島根県学力調査結果及び分析

松江市立湖東中学校

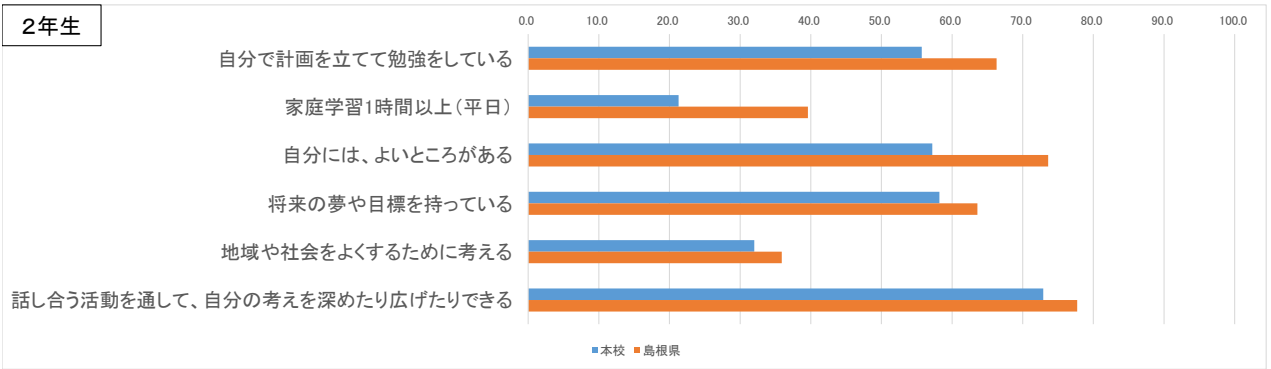
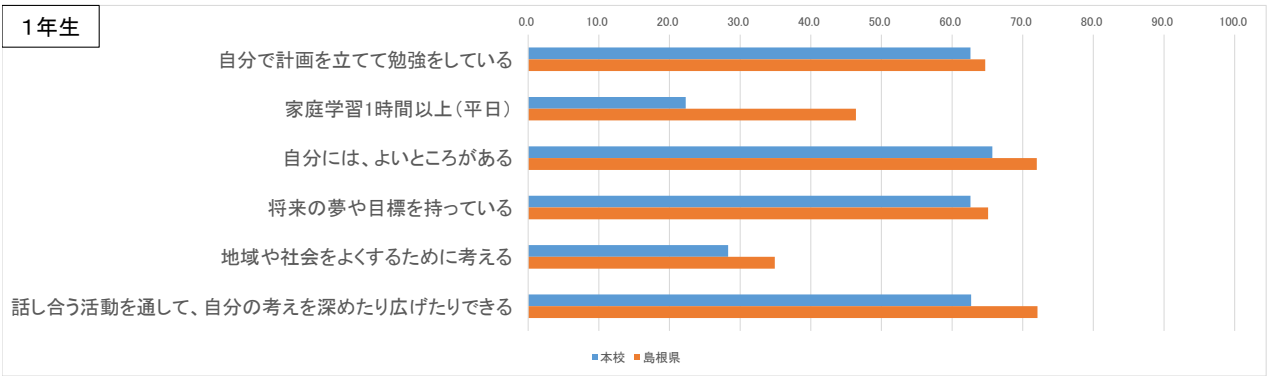
【1】「教科に関する調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
国語	○「読むこと」の分野については、目標値に近い数字であり、中でも特に文学的文章を読み取る力が身に付いている。 ●「情報の扱い方」「我が国の言語文化」について、難しいと感じる生徒が多く見られる。言葉についての基礎的な知識を身に付けるために、多くの言葉に触れる機会を設け、それを活用できるような活動を取り入れていきたい。	○「漢字の読み」「文法・語句の知識」については目標値に達しており、知識・技能における基礎的な力が身に付いているといえる。 ●「説明的な文章」「文学的な文章」を読み取る力に課題がある。教材となる文章への興味を引き出すことから、筆者・作者の文章構成力、表現の意図への気づきに発展させ、一人一人が主体的に文章を読み取っていく手だてを講じたい。
数学	○「方程式」の問題については、目標値に近い正答率があり、方程式を解く操作の手順は身に付いている生徒が多い。 ●すべての項目において、目標値や県平均を下回っており、まずは、基礎・基本の学習内容の定着を図るために、学習方法や学習習慣を確立するための支援が必要である。その上で、より確かな学力につながるよう適切な手立てを講じていきたい。	○証明の問題において、正答率が高かった。目標値を大きく上回っており、内容が定着している。 ●「連立方程式」「1次関数」について、目標値を下回った。文章を読み解き、内容を把握したうえで式にしたり、グラフにしたりする力が不足しているといえる。基礎的な力を身に付けたくて、活用する力を養えるような手立てを講じたい。
英語	○領域別正答率では、「聞くこと」の正答率が高かった。問題の内容別正答率では、「単語の並べかえによる英作文」の正答率が高かった。 ●「書くこと」の正答率が低い。単語テストや音読練習をくり返し、基礎基本の定着を図りたい。また、聞いたことや話したことを「書くこと」につなげ、表現力を高めたい。その際には、生徒たちが興味のある題材や場面設定を工夫し、意欲的に活動に取り組めるようにしたい。	○前年度と比較して、正答率はやや上がった。 ●市の平均に対して、「聞くこと」に比べて「読むこと」「書くこと」においてかなり低い結果となっている。文字に対して苦手を感じている生徒が多いと思われるので、長文読解の経験を増やしたり、作文などの書く活動を増やしたりして「読むこと」「書くこと」の力を伸ばしていきたい。

【2】「意識調査」結果から見られた成果と課題（○成果／●課題）

	1年生	2年生
意識	○県の結果には到らないが、自己肯定感が強く、将来に対して明るい展望をもっている生徒が多い。 ○授業でのタブレットの使用頻度も増えたためか、「主体的で対話的な深い学び」になれつつあると考える。 ●家庭学習の時間が県全体の半分程度にしか到っていない。1時間も家庭学習ができていない生徒が多い。（SNS使用に費やす時間が多いと考えられる。） ●地域や社会に対して関心をもっている生徒の割合は低い。	○1年生に比較し、自己肯定感や、将来に対する明るい展望をもって過ごしている生徒は若干少ない。 ○授業でのタブレットの使用頻度も増えたためか、「主体的で対話的な深い学び」になれつつあると考える。 ●2年生の時点ででありながら、家庭学習の時間が県全体の半分程度にしか到っていない。1時間も家庭学習ができていない生徒が多い。（SNS使用に費やす時間が多いと考えられる。） ●地域や社会に対して関心をもっている生徒の割合は低い。

【3】「意識調査に関するデータ」（教育委員会として注目している項目のうち全国調査と同様の質問項目を挙げています）



【R6学力調査受検者数】 1年生 97 名 2年生 123 名 (欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は最少の受検者数をもって表示)